

# マブキャンパス点滴静注 30mg に係る 医薬品リスク管理計画書

サノフィ株式会社

マブキャンパス点滴静注 30mg に係る  
医薬品リスク管理計画書 (RMP) の概要

|        |                     |           |                  |
|--------|---------------------|-----------|------------------|
| 販売名    | マブキャンパス点滴静注<br>30mg | 有効成分      | アレムツズマブ (遺伝子組換え) |
| 製造販売業者 | サノフィ株式会社            | 薬効分類      | 429              |
| 提出年月日  |                     | 2026年6月1日 |                  |

| 1.1. 安全性検討事項                            |   |                      |
|---|---|----------------------|
| 【重要な特定されたリスク】                           | 【重要な潜在的リスク】                                       | 【重要な不足情報】            |
| <a href="#">Infusion reaction</a>       | <a href="#">免疫障害 (自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症を除く)</a> | <a href="#">該当なし</a> |
| <a href="#">感染症</a>                     | <a href="#">進行性多巣性白質脳症</a>                        |                      |
| <a href="#">血液毒性</a>                    |   |                      |
| <a href="#">自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症</a> |   |                      |
| <a href="#">出血</a>                      |   |                      |
| <a href="#">腫瘍崩壊症候群</a>                 |   |                      |
| <a href="#">B型肝炎ウイルスの再活性化</a>           |   |                      |
| <a href="#">心臓障害</a>                    |   |                      |
| <a href="#">頭頸部動脈解離</a>                 |   |                      |
| 1.2. 有効性に関する検討事項                        |   |                      |
| <a href="#">該当なし</a>                    |   |                      |

↓上記に基づく安全性監視のための活動

|                               |
|-------------------------------|
| 2. 医薬品安全性監視計画の概要              |
| <a href="#">通常の医薬品安全性監視活動</a> |
| 3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要         |
| <a href="#">該当なし</a>          |

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

|   |
|---|
| 4. リスク最小化計画の概要  |
| <a href="#">通常のリスク最小化活動</a>                                     |
| 追加のリスク最小化活動   |
| <a href="#">医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) の作成と配布&lt;同種造血幹細胞移植の前治療&gt;</a> |

各項目の内容は RMP の本文でご確認ください。

## 医薬品リスク管理計画書

会社名：サノフィ株式会社

| 品目の概要  |  |      |                  |
|--------|--|------|------------------|
| 承認年月日  | 2014年9月26日   | 薬効分類 | 429              |
| 再審査期間  | 10年  | 承認番号 | 22600AMX01312000 |
| 国際誕生日  | 2001年5月7日  |      |                  |
| 販売名    | マブキャンパス点滴静注 30mg   |      |                  |
| 有効成分   | アレムツズマブ（遺伝子組換え）  |      |                  |
| 含量及び剤型 | 1バイアル（1mL）中、アレムツズマブ（遺伝子組換え）30mg  |      |                  |
| 用法及び用量 | <p>○再発又は難治性の慢性リンパ性白血病、<u>T細胞性前リンパ球性白血病</u>の場合<br/>通常、成人にはアレムツズマブ（遺伝子組換え）として1日1回3mgの連日点滴静注から開始し、1日1回10mgを連日点滴静注した後、1日1回30mgを週3回隔日に点滴静注する。ただし、投与開始から12週間までの投与とする。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>○同種造血幹細胞移植の前治療の場合<br/>通常、成人にはアレムツズマブ（遺伝子組換え）として1日1回0.16mg/kgを6日間点滴静注する。</p> |      |                  |
| 効能又は効果 | <p>○再発又は難治性の慢性リンパ性白血病</p> <p>○同種造血幹細胞移植の前治療</p> <p>○<u>T細胞性前リンパ球性白血病</u></p>   |      |                  |
| 承認条件   | 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。   |      |                  |
| 備考     | <p>効能追加（同種造血幹細胞移植の前治療）及び効能追加に伴う用法・用量の追加の承認年月日：2020年12月25日</p> <p><u>公知申請による効能又は効果追加（T細胞性前リンパ球性白血病）及び効能追加に伴う用法・用量の追加の承認年月日：2026年5月18日</u></p> <p>再発又は難治性の慢性リンパ性白血病の適応症については、2025年</p>   |      |                  |

|  |                     |
|--|---------------------|
|  | 12月10日に再審査結果が通知された。 |
|--|---------------------|

|   |  |
|---|--|
| 変更の履歴   |  |
| 前回提出日： <u>2023年10月27日</u>   |  |
| 変更内容の概要：  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① <u>効能又は効果（T細胞性前リンパ球性白血病）、用法及び用量の追加</u></li> <li>② <u>承認条件から使用成績調査に関する内容を削除</u></li> <li>③ <u>1.1 安全性検討事項、4.リスク最小化計画の概要から医療従事者向け資材（慢性リンパ性白血病）の作成と提供を削除</u></li> <li>④ <u>1.2 有効性に関する検討事項から「使用実態下における慢性リンパ性白血病に対する有効性」の削除</u></li> <li>⑤ <u>1.1 安全性検討事項の追加の医薬品安全性監視活動、2 医薬品安全性監視活動の項における追加の医薬品安全性監視活動、3 有効性に関する調査・試験の計画の概要から使用成績調査＜慢性リンパ性白血病＞を削除</u></li> <li>⑥ <u>1.1 安全性検討事項の追加の医薬品安全性監視活動、2 医薬品安全性監視活動の項における追加の医薬品安全性監視活動から使用成績調査＜同種造血幹細胞移植の前治療＞を削除</u></li> <li>⑦ <u>5.1 医薬品安全性監視計画の一覧、5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧の使用成績調査＜慢性リンパ性白血病＞の実施状況及び報告書の作成予定日を変更</u></li> <li>⑧ <u>5.1 医薬品安全性監視計画の一覧の使用成績調査＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の実施状況及び報告書の作成予定日を変更</u></li> </ul> |  |
| 変更理由：   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 公知申請に伴い、効能又は効果（T細胞性前リンパ球性白血病）、用法及び用量を追加したため。</li> <li>②⑥⑧ 同種造血幹細胞移植の前治療の適応症を含めた使用成績調査（全例調査）を終了したため。</li> <li>③④⑤⑦ 慢性リンパ性白血病の適応症に対する再審査結果通知を受領したため。</li> </ul>  |  |

# 1 医薬品リスク管理計画の概要

## 1.1 安全性検討事項

| 重要な特定されたリスク       |   |
|-------------------|---|
| Infusion reaction |   |
|                   | <p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 慢性リンパ性白血病患者を対象とした臨床試験における発現状況は以下のとおりであった。海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）において発現した infusion reaction に関連する事象は、悪寒 87.8%（108/123 名）、発熱 79.7%（98/123 名）、悪心 52.8%（65/123 名）、嘔吐 36.6%（45/123 名）、発疹 28.5%（35/123 名）、疲労 28.5%（35/123 名）、蕁麻疹 27.6%（34/123 名）、咳嗽 26.8%（33/123 名）呼吸困難 24.4%（30/123 名）及び下痢 21.1%（26/123 名）等であったが、その多くがグレード 1 又は 2 であった。海外第Ⅱ相試験で、本事象のために治験中止となった例は、CAM211 試験で 3.2%（3/93 名）が報告され、CAM213 試験では報告されなかった。国内臨床試験（CAMCLL07709）で infusion reaction に関連する事象（悪心、嘔吐及び発熱（それぞれ 66.7%（4/6 名））、悪寒（50.0%（3/6 名））、便秘、低血圧、蕁麻疹、倦怠感及び末梢性浮腫（それぞれ 33.3%（2/6 名））、頭痛、低酸素症、口腔咽頭不快感、そう痒症及び発疹（それぞれ 16.7%（1/6 名）））が報告されたが、重篤なものはなく治験中止例もなかった。海外第Ⅰ/Ⅱ相用量探索試験（125-001-C91、125-002-C91、125-003-C91）において、投与開始後の用量漸増と抗ヒスタミン剤及び解熱剤の前投薬により本事象の発現率及び重症度が軽減することが確認されたが、海外市販後においては、重篤なもの、及び infusion reaction の関連事象で死亡に至るもの（気管支痙攣、低酸素症、失神、肺浸潤、急性呼吸促迫症候群、呼吸停止、心筋梗塞、不整脈、急性心不全、心停止を含む）が報告されている。</li><li>● 造血器悪性腫瘍患者及び再生不良性貧血患者を対象とした同種造血幹細胞移植時の移植片対宿主病（GVHD）及び移植片拒絶の抑制に対して国内で医師主導により実施された 2 つの第Ⅰ/Ⅱ相試験（以下、同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした 2 つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験）（HE0402 及び HE0403）において本剤投与期間中に発現した主な事象は、C-反応性蛋白増加 75.9%（22/29 名）、発熱 51.7%（15/29 名）、食欲減退 44.8%（13/29 名）、倦怠感 41.4%（12/29 名）、悪心 34.5%（10/29 名）、頭痛 24.1%（7/29 名）、発疹 24.1%（7/29 名）、乳酸脱水素酵素増加 24.1%（7/29 名）、過敏症 20.7%（6/29 名）、アラニンアミノトランスフェラーゼ増加 20.7%（6/29 名）及びγ-グルタミルトランスフェラーゼ増加 20.7%（6/29 名）であった。重篤な事象及び本剤の中止に至った症例はなかった。</li><li>● 本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性があることから、重要な特定されたリスクとした。</li></ul> |

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

製造販売後における Infusion reaction の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動として添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

【選択理由】

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

## 感染症

重要な特定されたリスクとした理由：

- 本剤の薬効薬理試験においてリンパ球数の減少が確認されていることから、原疾患や本剤の薬理作用によって、サイトメガロウイルス感染を含む日和見感染症に罹患しやすい状態となることが懸念される。このため、慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）では、ニューモシスチス・イロベチイ肺炎や帯状疱疹、単純ヘルペスに対する治療薬の予防的投与を行い、同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした 2 つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）においては、ニューモシスチス・イロベチイ肺炎、帯状疱疹、単純ヘルペス、真菌等に対する予防投与を推奨していた。
- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）において発現した感染症に関する主な事象は、肺炎 8.9%（11/123 名）、敗血症 8.1%（10/123 名）、サイトメガロウイルス感染 7.3%（9/123 名）、口腔カンジダ症 7.3%（9/123 名）等であった。国内臨床試験（CAMCLL07709）では、本剤との因果関係が否定できないサイトメガロウイルス感染（グレード 3）（16.7%（1/6 名））及び肺結核（グレード 3）（16.7%（1/6 名））が報告された。また、海外市販後において、重篤及び死に至るウイルス感染症、細菌感染症、原虫感染症、真菌感染症、結核及び非定型抗酸菌症が報告されている。
- 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした 2 つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）において発現した感染症に関する主な事象は、敗血症 34.5%（10/29 名）、肺炎 17.2%（5/29 名）、サイトメガロウイルス性脈絡網膜炎 13.8%（4/29 名）、毛包炎 13.8%（4/29 名）、鼻咽頭炎 13.8%（4/29 名）、及び膀胱炎 10.3%（3/29 名）であり、そのうち、観察期間中に認められた Grade 3 以上の主な感染症は、敗血症 34.5%（10/29 名）及び肺炎 10.3%（3/29 名）であった。
- 本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性があることから重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

### 【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

### 【選択理由】

製造販売後における感染症の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

**【内容】**

- 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

**【選択理由】**

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

## 血液毒性

重要な特定されたリスクとした理由：

- 本剤の薬理作用からリンパ球が減少することが予測される。
- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外の第 I / II 相用量探索試験 (125-001-C91、125-002-C91、125-003-C91) において、本剤の 1 回の投与量が 30mg を超える、あるいは累積用量が週 90mg を超えると汎血球減少症の発現率が増加しており、海外第 II 相試験 (CAM211) で、血液毒性 (汎血球減少症、血小板減少症) (6.5% (6/93 名)) により治験中止となった症例が報告された。また、国内臨床試験 (CAMCLL07709) においてもグレード 3 以上の主な血液障害 (好中球減少症 (100% (6/6 名))、血小板減少症及び貧血 (それぞれ 50.0% (3/6 名)) が報告されている。
- 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした 2 つの国内第 I / II 相医師主導治験 (HE0402 及び HE0403) においては、血液毒性に関するグレード 3 以上の主な有害事象の発現頻度は、発熱性好中球減少症 37.9% (11/29 名)、貧血 13.8% (4/29 名)、好中球減少症 6.9% (2/29 名) であった。
- 本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性があることから重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

### 【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

### 【選択理由】

製造販売後における血液毒性の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

### 【内容】

- 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) <同種造血幹細胞移植の前治療> の作成、配布

### 【選択理由】

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

## 自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症

重要な特定されたリスクとした理由：

- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211及びCAM213）で発現した有害事象は、自己免疫性溶血性貧血 0.8%（1/123名）及び特発性血小板減少性紫斑病 0.8%（1/123名）であり、国内臨床試験（CAMCLL07709）では、自己免疫性溶血性貧血 16.7%（1/6名）であった。
- 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした2つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402及びHE0403）においては、自己免疫性溶結性貧血及び特発性血小板減少性紫斑病の発現はなかった。
- 特発性血小板減少性紫斑病は本来慢性リンパ性白血病に関連した病態であると考えられるが、本剤の薬理作用から、本事象に対する本剤の影響を完全に否定できない。また、本事象は時に致死的な転帰をとる場合があり実地医療では重要であることから重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

製造販売後における自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

【選択理由】

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

| 出血 |   |
|----|---|
|    | <p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）において、出血事象に関する有害事象の発現率は、26.0%（32/123 名）であった。その内グレード3以上の有害事象は4.9%（6/123 名）であった。国内臨床試験（CAMCLL07709）において、出血事象に関する有害事象の発現率は、33.3%（2/6 名）であり、グレード3以上の発現はなかった。</li> <li>● 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした2つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）における出血に関する有害事象の発現率は、72.4%（21/29 名）であり、その内グレード3以上の有害事象は13.8%（4/29 名）であった。</li> <li>● 本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性があることから重要な特定されたリスクとした。</li> </ul> |
|    | <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常の医薬品安全性監視活動</li> </ul> <p>【選択理由】</p> <p><u>製造販売後における出血の発現状況を把握するため。</u></p>  |
|    | <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。</li> <li>● 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布</li> </ul> </li> </ul> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。</p>  |

## 腫瘍崩壊症候群

重要な特定されたリスクとした理由：

- 本剤の治療に伴う腫瘍細胞の急激かつ大量の崩壊により、細胞内物質が細胞外へ放出され、尿酸、カリウム、カルシウム、リンなどの電解質バランスに異常をきたすおそれがある。
- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）及び国内臨床試験（CAMCLL07709）において、報告はなかったが、未治療慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅲ相試験（CAM307）で腫瘍崩壊症候群の有害事象 0.7%（1/147 名）が報告され、また、海外市販後においても認められている。
- 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした 2 つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）における腫瘍崩壊症候群に関する有害事象の発現はなかった。
- 本事象が発現した場合は致命的な転帰に至る可能性が考えられることから重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常 of 医薬品安全性監視活動

【選択理由】

製造販売後における腫瘍崩壊症候群の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常 of リスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加 of リスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

【選択理由】

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

## B型肝炎ウイルスの再活性化

重要な特定されたリスクとした理由：

- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211及びCAM213）及び国内臨床試験（CAMCLL07709）において、報告はなかったが、未治療慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅲ相試験（CAM307）でB型肝炎再燃が疑われる「肝炎」の有害事象0.7%（1/147名）が報告された。また、海外市販後において本剤と因果関係が否定できない重篤な症例が認められている。
- 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした2つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402及びHE0403）ではB型肝炎ウイルスの再活性化に関すると考えられる有害事象の発現はなかった。
- 本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性があることから重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

**【内容】**

- 通常の医薬品安全性監視活動

**【選択理由】**

製造販売後におけるB型肝炎ウイルスの再活性化の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

**【内容】**

- 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

**【選択理由】**

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

## 心臓障害

重要な特定されたリスクとした理由：

- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした国内臨床試験（CAMCLL07709）では、「心臓障害」の有害事象は報告されなかったが、海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）において、グレード3または4の心臓障害（頻脈（1.6%（2/123名））、心房細動（1.6%（2/123名））、心筋梗塞（0.8%（1/123名））、急性心筋梗塞（0.8%（1/123名））、心肺停止（0.8%（1/123名））、上室性頻脈（0.8%（1/123名）））が報告された。海外市販後では、心毒性があると考えられる薬剤で前治療を受けていた患者において、うっ血性心不全、心筋症、駆出率減少が報告されている。
- 同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした2つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）では、心臓障害に関するグレード3以上の有害事象は、狭心症及び心不全各3.4%（1/29名）であった。
- 本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性があることから重要な特定されたリスクとした。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常 of 医薬品安全性監視活動

【選択理由】

製造販売後における心臓障害の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常 of リスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加 of リスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

【選択理由】

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

| <b>頭頸部動脈解離</b> |  |
|----------------|--|
|                | <p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 海外での市販後において、頸動脈、椎骨動脈等の頭頸部動脈解離があらわれ虚血性脳卒中に至った症例が報告されている。</li> <li>● 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）、国内臨床試験（CAMCLL07709）、及び同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした2つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）において報告はなかったが、本事象が発現した場合は重篤な転帰を辿る可能性がある。</li> </ul>  |
|                | <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常の医薬品安全性監視活動</li> </ul> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における頭頸部動脈解離の発現状況を把握するため。</p>   |
|                | <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。</li> <li>● 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布</li> </ul> </li> </ul> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。</p> |

| 重要な潜在的リスク                        |   |
|----------------------------------|---|
| 免疫障害（自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症を除く） |   |
|                                  | <p>重要な潜在的リスクとした理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本剤は慢性リンパ性白血病細胞の細胞膜に発現する CD52 と結合し、主に慢性リンパ性白血病細胞に対して抗体依存性細胞傷害（ADCC）活性及び補体依存性細胞傷害（CDC）活性を誘導するだけでなく、その他の免疫細胞にも同様の障害活性を誘導するため、免疫機能に異常をきたすおそれがある。</li> <li>● 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）、国内臨床試験（CAMCLL07709）、及び同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした 2 つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）において、免疫障害（自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症を除く）に関する有害事象は報告されなかったが、海外市販後において本剤と因果関係が否定できない死亡に至った再生不良性貧血、ギランバレー症候群、血清病等が報告されている。</li> </ul> |
|                                  | <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常の医薬品安全性監視活動</li> </ul> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における免疫障害の発現状況を把握するため。</p>   |
|                                  | <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。</li> <li>● 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布</li> </ul> </li> </ul> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。</p>  |

## 進行性多巣性白質脳症

重要な潜在的リスクとした理由：

- 慢性リンパ性白血病患者を対象とした海外第Ⅱ相試験（CAM211 及び CAM213）、国内臨床試験（CAMCLL07709）、及び同種造血幹細胞移植の前治療を対象とした2つの国内第Ⅰ/Ⅱ相医師主導治験（HE0402 及び HE0403）において、報告はなかったが、海外市販後において本剤と因果関係が否定できない死亡に至った進行性多巣性白質脳症が報告されている。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常の医薬品安全性監視活動

【選択理由】

製造販売後における進行性多巣性白質脳症の発現状況を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- 通常のリスク最小化活動として、添付文書及び患者向医薬品ガイドに記載し、本剤投与期間中及び当該事象発現の注意等について注意喚起する。
- 追加のリスク最小化活動として、以下を実施する。
  - 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布

【選択理由】

製造販売後の有害事象及び副作用の発現状況に関する情報を医療従事者及び患者に確実に情報提供し、適正な使用に関する理解を促し、安全性の確保を図るため。

|                |      |
|----------------|------|
| <b>重要な不足情報</b> |      |
|                | 該当なし |

1.2 有効性に関する検討事項

該当なし

## 2 医薬品安全性監視計画の概要

### 通常 of 医薬品安全性監視活動

通常 of 医薬品安全性監視活動 of 概要：

自発報告、文献・学会情報、外国措置情報、製造販売後調査より報告される有害事象症例 of 評価

### 3 有効性に関する調査・試験の計画の概要

該当なし

## 4 リスク最小化計画の概要

|   |
|---|
| <b>通常のリスク最小化活動</b>  |
| 通常のリスク最小化活動の概要：<br>添付文書及び患者向医薬品ガイドによる情報提供・注意喚起  |
| <b>追加のリスク最小化活動</b>  |
| <b>医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成と配布〈同種造血幹細胞移植の前治療〉</b>  |
| <p><b>【安全性検討事項】</b><br/>Infusion reaction、感染症、血液毒性、自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症、出血、腫瘍崩壊症候群、B型肝炎ウイルスの再活性化、心臓障害、免疫障害（自己免疫性溶血性貧血及び自己免疫性血小板減少症を除く）、進行性多巣性白質脳症、頭頸部動脈解離</p> <p><b>【目的】</b><br/>本剤の安全性の包括的な情報（患者選択における注意点、投与方法・用量調節における注意点、治療前から治療終了後までの注意すべき事項、安全性検討事項の発現状況や早期検出と適切な診断・治療のための情報）を提供する。</p> <p><b>【具体的な方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 納入時にMRが提供、説明し、資材の活用を依頼する。</li><li>● 医薬品医療機器総合機構ウェブサイトに掲載する。</li></ul> <p><b>【節目となる予定の時期、実施した結果に基づき採択される可能性がある更なる措置】</b><br/>市販直後調査期間中は1ヵ月毎に、それ以降は安全性定期報告のデータロック時あるいは製造販売後調査が得られた各時点において、安全性検討事項の発現件数・販売量の推移を確認する。本結果から、リスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合、また新たな安全性検討事項が認められた場合や新たな注意喚起や推奨事項が生じた場合には、資材の改訂、配布方法等の実施方法の改訂、追加の資材作成等を検討する。</p> <p>報告の予定時期：安全性定期報告書提出時、再審査申請時</p> |

## 5 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

### 5.1 医薬品安全性監視計画の一覧

| 通常 of 医薬品安全性監視活動                            |  |  |      |                   |
|---|--|--|------|-------------------|
| 自発報告、文献・学会情報、外国措置情報、製造販売後調査より報告される有害事象症例の評価 |  |  |      |                   |
| 追加 of 医薬品安全性監視活動                            |  |  |      |                   |
| 追加 of 医薬品安全性監視活動 of 名称                      | 節目となる症例数 / 目標症例数   | 節目となる予定 of 時期  | 実施状況 | 報告書 of 作成予定日      |
| 市販直後調査<慢性リンパ性白血病>                           | 該当せず   | <ul style="list-style-type: none"> <li>市販直後調査終了時</li> </ul>  | 終了   | 作成済み (2015年8月提出)  |
| 使用成績調査<慢性リンパ性白血病>                           | 節目となる症例数: 100例 (登録のみ) / 目標症例数: 216例 (または登録期間終了時まで to 登録された全症例) | <ul style="list-style-type: none"> <li>安全性定期報告時</li> <li>節目となる症例数 to 到達した以降 of 直近 of 安全性定期報告時 / 調査開始4年を経過した直近 of 安全性定期報告時 (中間解析 of 実施)</li> <li>調査終了時</li> </ul> | 終了   | 作成済み (2024年12月提出) |
| 使用成績調査<同種造血幹細胞移植 of 前治療>                    | 50例  | <ul style="list-style-type: none"> <li>安全性定期報告時</li> <li>調査終了時</li> </ul>  | 終了   | 作成済み (2024年12月提出) |

## 5.2 有効性に関する調査・試験の計画の一覧

| 有効性に関する調査・試験の名称   | 節目となる症例数<br>／目標症例数  | 節目となる<br>予定の時期   | 実施状況 | 報告書の<br>作成予定日        |
|-------------------|---|--|------|----------------------|
| 使用成績調査＜慢性リンパ性白血病＞ | 節目となる症例数：100例（登録のみ）<br>／目標症例数：216例（または登録期間終了時までに登録された全症例） | <ul style="list-style-type: none"> <li>安全性定期報告時</li> <li>節目となる症例数に到達した以降の直近の安全性定期報告時／調査開始4年を経過した直近の安全性定期報告時（中間解析の実施）</li> <li>調査終了時</li> </ul> | 終了   | 作成済み<br>(2024年12月提出) |

## 5.3 リスク最小化計画の一覧

| 通常のリスク最小化活動   |                      |      |
|---|----------------------|------|
| 添付文書に記載し、使用上の注意改訂による注意喚起は継続して施行する。<br>患者向医薬品ガイドによる情報提供・注意喚起を行う。 |                      |      |
| 追加のリスク最小化活動   |                      |      |
| 追加のリスク最小化活動の名称  | 節目となる予定の時期           | 実施状況 |
| 市販直後調査による情報提供<br>＜慢性リンパ性白血病＞                                    | 販売開始6ヵ月後             | 終了   |
| 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）＜同種造血幹細胞移植の前治療＞の作成、配布                         | 安全性定期報告提出時<br>再審査申請時 | 実施中  |